

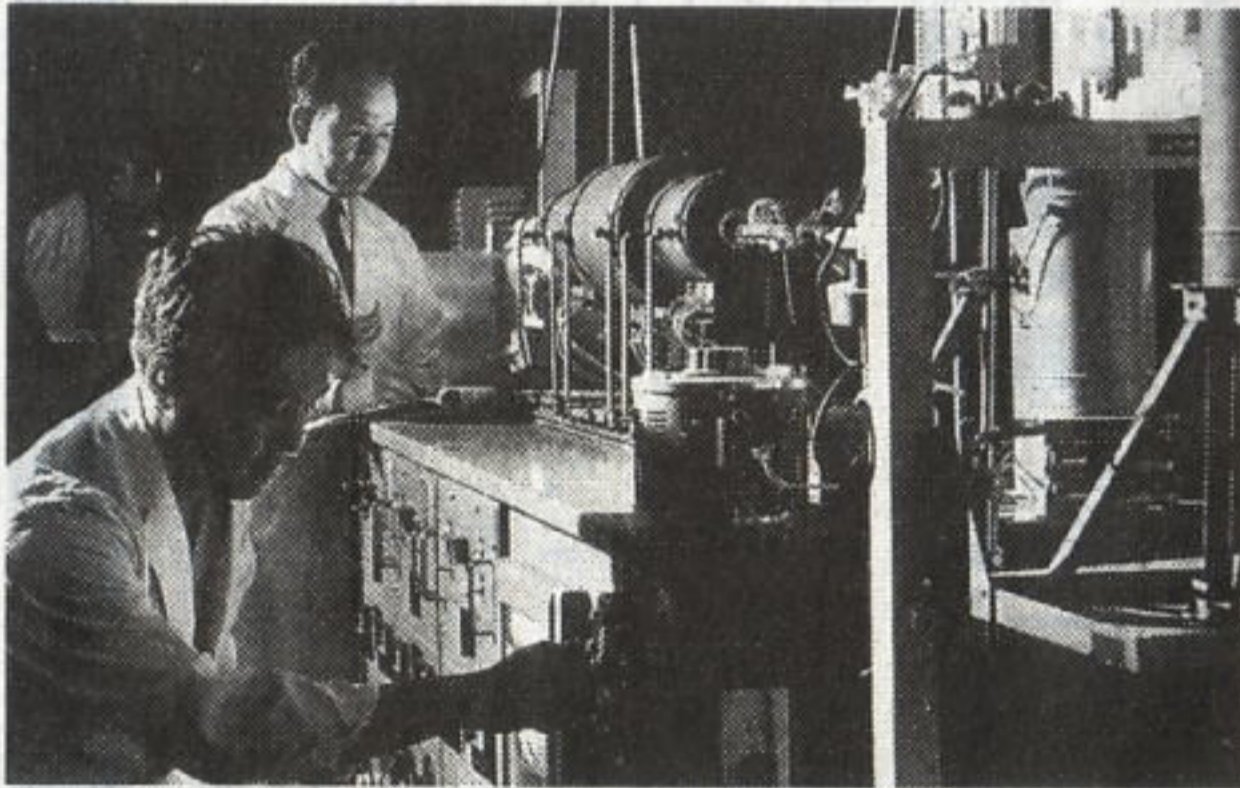
科学する人

青色LED開発の赤崎勇さん

赤崎勇さんは鹿児島県で生まれた。小さいころは外で遊んでばかり。親が買ってくれた鉱物標本の結晶を飽きずに眺めた。京都大時代は神社仏閣巡りや山登りに明け暮れた。

別のメーカーや名古屋大を経て1964年、松下電器東京研究所の基礎研究室長になった。化合物半導体の可能性に期待が寄せられていた時代だった。材料となるさまざまな結晶を作る基礎研究に取り組み、困難だった

選んだ材料は本命外



高純度のヒ化ガリウム単結晶成長に取り組む赤崎勇さん(左から2人目)＝1965年(松下電器東京研究所提供)

困難な道、孤独に歩む

「ヒ化ガリウム」で高純度の結晶も苦勞の末、実現させた。この光を出すには大きなエネルギーが必要だ。候

の材料。青は波長が短く、補はセレン化亜鉛、炭化ケイ素以外に窒化ガリウ

「2」
D)の研究も始め、赤や
緑の開発にムがあり、赤崎さんはこ
携わったれを選んだ。だが窒化ガ
後、70年代リウムは発光素子に必要
初めから誰なきれいな結晶ができ
も達成してず、さらに、明るい光を
いない「p出し続ける「pn接合」
n接合によも実現できていなかった
る明るいため、本命視されていた
青」に挑戦かった。
した。国際会議で赤崎さんが
ハードル窒化ガリウムの発表をし
はいくつても、全く反応がない。
あった。ま思わず「やっぱり一人な
ず発光素子んだな」とつぶやいた。